10月 町屋幼稚園だより

令和８年９月３０日
荒川区立町屋幼稚園
園長　浪江　泰弘

小さな秋と、大きな成長

園長　浪江　泰弘

爽やかな秋晴れの空の下、子どもたちの元気な歓声が園庭いっぱいに響き渡る季節となりました。

さて、今月は子どもたちが楽しみにしている運動会が行われます。練習の過程では、思い通りにいかずに悔しい思いをしたり、友達と力を合わせる難しさにぶつかったりすることもあります。しかし、それを一つひとつ乗り越え、試行錯誤しながら励まし合う姿に、日々大きな成長を感じています。大事なのは、本番の結果だけではありません。「最後まで諦めずに頑張った」「友達を応援できた」というプロセスそのものが、子どもたちの心の根っこを強く育てていきます。

どうぞ、運動会当日は、保護者の皆様も子どもたちの「一歩」をあたたかく見守り、たくさんの拍手と笑顔で包んであげてください。

また、１０月は、運動会以外にもたくさんの行事が予定されています。子どもたちが心躍らせる様々な行事が目白押しです。子どもたちが大きく成長するための大切な「学びと気づきの場」でもあります。実り多きこの季節、子どもたち一人ひとりの「成長の瞬間」を大切に見守りながら、充実した毎日を過ごしてまいります。

≪今月のねらい≫

【年　長】○自分なりのめあてをもって意欲的に遊びに取り組む中で、自分の力を発揮する楽しさを味わう。
○自分なりに見通しをもち、生活や遊びを進めていこうとする。
○秋の自然に触れ、工夫したり試したりして遊びに取り入れることを楽しむ。

もうすぐ運動会！思いや考えを出し合ったり、思い切り身体を動かしたりすることを楽しんでいます。





今年度も区内全園で「令和８年度荒川区幼稚園・子ども園幼児の運動能力に関する調査」を実施します。

幼児期の子ども達は、神経機能の発達が著しく、タイミングよく動いたり、力の加減をコントロールしたりするなどの運動を調節する能力が顕著に向上する重要な時期です。一方、運動不足などによる全国的な体力の低下が懸念されています。幼児期から運動に親しみ、自ら体力を高めていく習慣を身に付け、生涯にわたって心身の健康を保持増進することができる資質・能力を育むため、幼児の体力の現状を把握することが本調査の目的です。立ち幅跳び、ソフトボール投げなどの運動能力に関する調査を行います。保護者の皆様におかれましては、取組についてご理解とご協力いただきますようお願いいたします。

町屋幼稚園の歴史探訪　⑤

平成28年(2016年)、「幼児期からの藝術教育」の実践モデル園として荒川区の教育研究指定園となり、東京藝術大学と連携し、様々な表現活動で心を動かしました。過去の研究を辿ってみると、昭和51年の荒川区研究奨励園研究発表での研究主題は「よく考え行動する子どもを育てるための指導法」、昭和58年の研究主題は「鬼遊びを通して明るく素直な子を育てる指導法」とあります。令和2年には幼小の一層の円滑な接続を図るための教育課程の研究・開発事業モデル園として指定されました。創立以来、主体的に生きる力を育てるという教育目標に向かって歩んできた町屋幼稚園の歴史が感じられます。


東京藝術大学の先生方と
遊戯室で製作